

## 令和4年度 第2回長野市農業振興審議会 議事録（概要）

開催日時 令和5年2月13日（月）午前9時30分から午前11時まで

開催場所 長野市役所第二庁舎10階 講堂

出席者 委員11名、傍聴なし、事務局（市職員）12名

### 次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 農林部長あいさつ
- 4 議事
  - (1) 長野農業振興地域整備計画の総合見直しについて
  - (2) 「地域計画」の策定に向けて
  - (3) その他
- 5 閉会

### 議事（概要）

#### 議題(1) 長野農業振興地域整備計画の総合見直しについて

資料1、2、3に基づき事務局から説明

#### 質議

（委員）

この計画書は大枠での計画案と思うが、例えば個別に用水改良計画等が今後10年の間に追加で整備されるような場合、改めて追記されていくのか。

（事務局）

本計画策定後に大きく変化が生じ更なる見直しが必要な場合は変更計画を策定するが、そうでない場合は現時点での計画としてこのまま継続する。

（委員）

第6の農業を担うべき者の確保・育成施設の整備計画の中で、開設された農業研修センターの記載がある。これは計画ではなく参考として記載したものか。

（事務局）

既に開設されているので参考として記載した。

（委員）

研修内容についても記載したほうがよいのでは。

(事務局)

記載するよう検討する。

(委員)

本計画にある農業生産基盤の改修や新設の計画について年次計画はあるのか。また、農道に架かる橋の老朽化が相当進んでいると思うが、橋の改修も農道の改修に関する記載の中に含まれるのか。

(事務局)

本計画は総括的な計画のため、年次計画は別途各担当課の計画で進めさせていただく。また、農道に架かる橋の老朽化が顕著な場合については、必要に応じて改修を実施していく。

(会長)

農業委員会としては農家相談会等をやっているが、そういった活動は計画の中に入らないのか。

(事務局)

農家相談会等についても記載するよう検討する。

(委員)

担い手の確保・育成の関係ではJAにもいろいろやってもらっているが、この点についてどう考えているか。

(事務局)

本日は現時点での時点修正版でありたたき台としてお示しさせていただいたもので、今後たたき台をブラッシュアップしていく中で農業委員会やJAの活動等ご意見を頂戴しながら案へ反映していきたい。

(委員)

農地の売買や賃借の際の下限面積が法改正によりこの4月から廃止となることから、小規模な農家が多くなると考えられる。

こうした状況を踏まえた上で、農業を担うべき者のための支援の活動の中に今の時点で考えられる必要なものがあれば示していく必要があると思うが。

(事務局)

これまで国では生産をしっかりできる人に農地を集約・集積し農業を維持していこう

と考えていたと思うが、少子高齢化、人口減少が加速し農業を担う人が更に減少し農地が有効利用されなくなってしまうことが課題と捉えるようになったと思う。

農地を小さい単位でも流動化をもたせ活用してもらいたいと思うので、そういう視点を入れながら計画をまとめていきたい。

(会長)

各組織の代表として出た委員が多いので、本日のたたき台を各団体で検討し意見を持ち寄って改めてこの計画の中に反映させていただくという進め方としたいが、いつまでに出せばよいか。

(事務局)

令和5年5月までにお願いしたい。

(会長)

それでは、今後それぞれ5月までに事務局に意見を提出し、7月の審議会に向かうということをお願いしたい。

## 議題(2) 「地域計画」の策定に向けて

資料4に基づき事務局から説明

質議

(委員)

計画は将来の担い手を確保する意味では意義あることと思うが、担い手に位置付けられた人に農地を押し付けるような形にはならないか。

(事務局)

地域での話し合いで協議するので押し付けにはならないと思う。ただ、全員そろって話し合いができるのかという部分はあるので、アンケート等を組み合わせやっていく予定であるが、そこで押し付けにならないよう伝えながら実効的な計画にしていきたい。

(委員)

主として栽培する作物を決めると、例えば気候が悪く決められた作物が全滅してしまうことも考えられるが、その点についてはどうお考えか。

(事務局)

気候変動は大きなリスクである。ただ、地域計画策定段階では今考えられることを形にできればよいと思う。計画策定後は毎年見直しいただくので、状況に応じた変更はあ

ら思っている。

栽培作物の特定はほかの作物を作ってはいけないということだけでなく、地域の中で生産するものの方向性があると中間管理機構をとおして借りたい人が集まりやすく、結果として農地の有効活用が進み、集積すべき人のところに集積集約できるのではないかと思う。

(会長)

今の長野市には農地が約 24 万筆ある。私の農業委員の担当として約 7 千筆ある。7 千筆全部を 1 筆ごとに農業者の 5 年後 10 年後の意向確認をして、5 年後 10 年後の目標地図づくりをしてくれというのが国のオーダーである。

一方、長野市の荒廃農地率は中山間地域中心に約 3 割となっており、ほぼ復活できない。

こうした状況の中で、果たしてこれだけの作業をどうやって進めていけばよいのか。農業委員としては頭の痛い課題である。

しかし、これをしっかりやらないと長野市の農業はだめになってしまう。そういう覚悟でこの課題に取り組もうと思っている。

さりとて、農業委員会は限られた人員である。行政、JA、土地改良区、住民自治協議会等、直接間接に関わっている方の支援と理解がなければこの計画は進まないと思う。

そういう面を含め JA さんから意見を聞きたい。

(委員)

JA グリーン長野では中山間地域が多くあり人・農地プランがなかなかうまくやっっていけない状況になっている。

今農業をがんばってやってる若手や U・J・I ターンに対する支援、定年延長者への就農支援、農業機械購入に対する支援等をしていただけたらと思う。

(委員)

JA ながの管内では中山間地域でもそばなど地域奨励作物的なものが農地を守っているが、新たな農産物による振興ができていない。

今後農地を守ってくためには、地域計画にもあるがこの地域ではこういうものを振興させるため施策を集中投下しましょうということが必要になると思う。

管内の山手では遊休荒廃農地が増えているので、その中に入ってやっていただけるような品目への誘導を考えていかなければならない。

### 議題(3) その他

意見なし